市内観光ミニツアーガイドマニュアル
史跡と自然を満喫できる
B　ハケの道コース

	観光情報センター	武蔵国府跡	普門寺	国府八幡宮	鳩林荘前	いききの道・筏道	瀧神社	東郷寺
目安	10:00～10:30	10:35～10:40	10:50～11:00	11:05～11:10	11:15～11:25	11:30～11:40	11:50～12:00	

第一印象を大切に！

①普段の体調管理で健康第一
②笑顔で挨拶、笑顔で案内
③元気な声ではっきりと

緊急・事故時の対応

①急病・怪我には、先ず応急処置を
②病院、医師、ご家族への通報を
③第一報を観光情報センターへ

出発前の挨拶

①自己紹介
②コースの説明
③案内中のお願いと注意事項
　・夏場の水分補給、冬場のトイレ
　・建物側の通行と自転車の注意

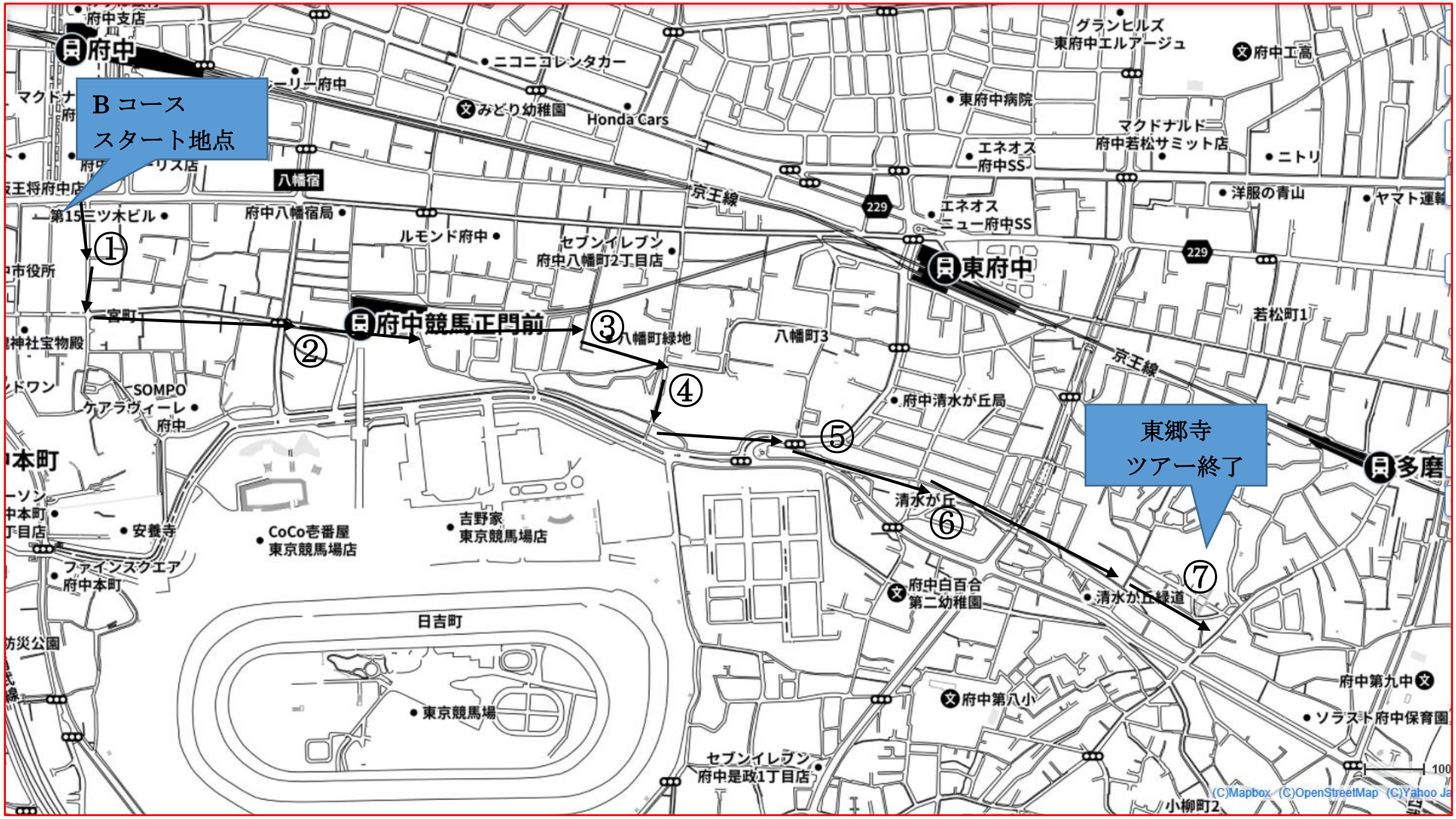
解散方法について

①解散後の個別の案内は行わない
②参加者の帰りの交通手段を説明する
③解説チラシ、ミニツアーチラシを配布し、友人・知人へのミニツアー参加勧奨を依頼する
④観光情報センターに戻り「実施報告書」を提出する

B　史跡と自然を満喫できる　ハケの道コース

NO	スポット	解説ポイント	備考
1	観光情報センター （10:00）出発		トイレ
2	武蔵国府跡 （10:00～10:30）	・武蔵国は大国。国府、国衙、国庁。五畿七道 ・正殿、前殿の跡、掘立柱・礎石柱跡、塼、瓦の出土 ・国司は都から派遣等	
3	普門寺 （10:35～10:40）	・妙光院の末寺。真言宗豊山派。恵伝法印の中興開山 ・西蓮寺と普門寺。本堂は西蓮寺の薬師堂 ・薬師如来を安置、「目の薬師様」、縁日	
4	国府八幡宮 （10:50～11:00）	・聖武天皇、各国に一社八幡宮を創建 ・御祭神は応神天皇。国府の守護神、西向き。放生会 ・一之鳥居は旧甲州街道、大國魂神社の随神門を移設	休憩 トイレ
5	鳩林荘 （11:05～11:10）	・名前の由来。所有者の変遷、石橋正二郎 ・庭園内の説明。、企画ガイドツアーの案内	
6	いききの道 （11:15～11:25）	・名前の由来 ・多摩川とハケ、筏師	
7	瀧神社 （11:30～11:40）	・神社の起源、祭神 ・例祭、くらやみ祭との関係 ・御神木ケヤキと滝の見学	
8	東郷寺 （11:50～12:00）	・東郷寺の起源。東郷平八郎墓地等案内 ・東郷平八郎の生涯、日本海海戦等 ・境内、山門、枝垂桜	

2024.9



市内観光ミニツアー：
史跡と自然を満喫できる
Bハケの道コース

①　武蔵国府跡、②　普門寺、③　国府八幡宮、④　鳩林荘前、
⑤　いききの道、⑥　瀧神社、⑦　東郷寺

（B コース・ガイドマニュアル 2024.9 改訂）

武蔵国府跡

大化改新(645)以後、我が国統一朝廷は、中国の随、唐の律令制度を模範とした中央集権国家の樹立に着手した。大宝律令の制定(701)により、公地公民、二官八省、国里郡の地方制度、租庸調の税制度等の一連の改新により、全国を６０余の国に区分し、大国、上国、中国、下国の４等級に格付けした。
６０余国は五畿七道に区分けされ、武蔵国は東山道に所属したが、７７１年東海道に所属替えとなった。各国に国府が置かれ、武蔵国の国府は府中(多摩郡)に置かれた。国司が中央から派遣され、任期は６年(後に４年)でした。
武蔵国は２１郡を管轄する大国（江戸時代下総国から葛飾郡が武蔵国に所属替えとなり２２郡となる）であり、２１郡には郡家(グウケ)と呼ばれる役所が置かれ、地域の有力豪族が郡司に任命された。武蔵国は現在の東京都、埼玉県、神奈川県の横浜市、川崎市の大部分を含む広大な国であった。
府中市では昭和５０年以降、１６００カ所以上の発掘調査の結果、大國魂神社東側部分で市内最大級の大型掘立柱建物跡の発見、歯科医院下から多数の掘立柱跡が発掘され、国府の中心部分が明確となり「武蔵国衙跡」として公開したが、平成２１年７月２３日「武蔵国府跡」として国史跡に指定された。
赤い柱（道路面には表示)は掘立柱の跡が実際に発掘された場所を示し、正殿・前殿のおおよその場所が分かる。また国衙域では郡名を表す１文字が入った塼（セン）や瓦が多数出土されていることから、国内の各郡が国衙造営に協力したことを示している。国衙域は東西 200m南北 300m、国府域は東西 2.４km 南北 1.8km に及ぶ大規模なものと判明した。また、分倍河原付近では南北にまっすぐ延び、東山道につながる東山道武蔵路が発見されている。

国庁　　国司が儀式や政治を行う役所の中枢施設。

国衙　　国庁の周囲に設営された国の行政事務を行う役所群。

国府　　国衙に勤務する役人の舘、兵士の宿舎、市、学校民家等を含む全体。

大宝３年(703)に従五位下武蔵権守引田朝臣祖父が武蔵国国司に任官している。
大国である武蔵国には守ｶﾐ、介ｽｹ、掾ｼﾞｮｳ(二人)目ｻｶﾝ(二人)史生ｼｼｮｳ(三人)の９人の役人が中央から派遣された。承保２年(1075)菅原是綱まで任官判明。

何故府中に国府が置かれたのか

①国の中で都により近い立地で国と国を結ぶ駅路、国府と諸郡を結ぶ道路網と河川等の交通の結節点、即ち東山道武蔵路と多摩川の水運と渡渉地点付近。
②災害に遭いにくく広い国府域を確保出来る場所、即ち府中崖線上の台地。
国府は古代の直線計画道路網(七道)でネットワーク化された古代地方都市であり、在地勢力とは原則関係なく設置されたと考えられる。(江口　桂氏説)

京所（きょうづ）・京所道

国府、六所宮の納経所のような施設があったことから「経所」と呼ばれていたが、それが転訛して「京所」になったと云われている。
京所の中心部を通る道を京所道と呼ばれている。この道は甲州街道が開設されるまでの初期の道として重要な役割を果たした。

普門寺

大悲山清涼院普門寺と称す。真言宗豊山派。開山・開基ともに不詳。
天文３年(1534)権大僧都恵伝法印の中興と伝わる。本町にある妙光院の末寺。
現在の普門寺の本堂はかつての西蓮寺の薬師堂である。
大國魂神社所蔵の元文３年(1738)神領古地図によると、西蓮寺と普門寺は並んで記載されているが、明治以降共に荒廃し、西蓮寺は廃寺となり普門寺に併合された。
本尊は聖観世音像で薬師堂の中に薬師如来像と一緒に祀られている。
薬師如来は眼病に霊験ある仏様として崇敬されて、「目の薬師様」として知られ、９月第２土曜日の縁日には多くの人が「お目玉」をお供えして、そのお下がりを頂き、眼の病の快復を祈っている。
普門寺は、多摩四国八十八か所第２２番の霊場として巡拝されている。

東京競馬場

東京競馬場は昭和８年（1933）目黒から府中に移転し出来たものである。ＪＲＡ全国１０競馬場で最大の２４万坪で東京ドーム１５個分である。京王電鉄競馬場線は昭和３０年開通したが、既に国鉄下河原線に「東京競馬場前」駅（現在、矢崎防災公園）があった為、「府中競馬正門前」駅とされたものである。
黄金の馬「アハルテケ」、現在のトルクメニスタンで３０００年前から飼われている金色に輝く毛並みの美しい馬である。持久力と暑さに強く、大胆で忍耐強く、流麗な走りをみせる馬で、現在も馬術競技で活躍している。尚、競馬場で走るサラブレッドの品種ではない。
（東京競馬場の詳細はＣコースで説明）

武蔵国府八幡宮

大國魂神社の境外末社である。
聖武天皇の御代（724～749)、各国に一社の八幡神社として創立された社であると伝えられ、ご祭神は応神天皇である。国府の守護神として建立され、武蔵国府鎮護の為に勧請されたもので本殿は国衙がある西向きである。
８月１５日が例祭、当日は大國魂神社の神主が参拝し、芝居小屋や露店が並ぶ。

鳥居は旧甲州街道に面し長い参道が本殿に続いている。参道には途中踏切がある。昭和８年東京競馬場が府中に移転して競馬場への交通手段として昭和３０年に京王電鉄競馬場線が敷設されたことにより、電車が参道を横切ったものである。京王電鉄が踏切に石碑と鳥居を建立している。

随神門は２０１１年に大國魂神社の随神門が創立１９００年祭に新しくしたことから大國魂神社の旧随神門を移築したものである。

八幡宮

古代律令国家時代の各国国府の近くに勧請された八幡宮を国府八幡又は八幡宮と云う。
国司は京都から任国に下って管内の神社行政その他の行政を司ったが、京都の文化を慕うと共に、在京の時、崇敬していた神社を忘れがたく京都内外の有名な神社の分祀を国府に勧請してその心情を癒したのである。その神社には石清水八幡宮、北野天神社、日吉神社、賀茂神社、祇園社、愛宕神社、稲荷神社、住吉神社、春日神社等がある。中でも著しく多いのが八幡神社である。他に国分寺を鎮護する為に勧請された八幡宮もある。（国史大辞典）

放生会

元正天皇が養老４年(720)宇佐八幡宮で初めて放生会を行ってから、陽成天皇が元慶６年(882)勅使各国府八幡宮に放生田を置き、毎年放生会を行う費用にした。国司監督の下に、郡司等をして、民間から鳥、魚を買い集めさせて８月 15 日に盛大に放生会を行い、生類憐みの主旨の下に、鳥類は山野に、魚類は河、池に放したのである。近くに河や池がなければ放生池を掘らしめて魚類を放したのである。故に八幡宮には大抵放生池がつきものである。尚、放った鳥(主として鳩)が境内に住み着いたので、鳩は八幡宮の御使者と云われるようになった。

（猿渡盛厚著　武蔵府中物語）

鳩林荘

全敷地 5000 坪。管理棟 1500 坪、庭園部 3500 坪（半分は大国魂神社より借地）かつては、旧和泉国岸和田藩主（5 万３千石）元東京府知事の岡部長職（ナガモト）所有の別荘でしたが、その後、加藤辰弥氏（西園寺公望の秘書官）が買い付け、昭和２５年(1950)にブリジストン創業者の石橋正二郎の所有となり、現在は石橋正二郎が設立した不動産会社㈱永坂産業（㈱ブリジストンの大株主）が所有・管理している。

この建物の主家は京都の宮大工に造らせた建物で、当時は杉林に囲まれ山鳩が巣を作っていることから、「鳩林荘」と名付けたという。府中崖線の湧水を利用して崖下に流水される設計になっている。特に春の新緑・秋の紅葉の季節は素晴らしく、樹齢 500 年の欅もあり、四季折々の花が咲く。
周囲は杉林も多く、豊富な地下水が湧き出ていたが、各所で水道用として汲み上げられ、更に周辺地区の都市化で湧き水は徐々に枯渇し、杉林は全滅となった。
現在、鳩林荘は㈱永坂産業（ブリジストンの大株主、ブリジストン本社ビル所有の不動産管理会社）が所有・管理し、庭師が常時５～6 人おり、５棟の茅葺き屋根の建物、庭園を保存・管理している。
また、現在この建物は、賓客の接待する場所として利用されている。（一般公開はされていません）

岡部長職（1854～1925）は和泉国岸和田藩主の 13 代最後の藩主であり、16 歳で藩主の座を降り、その後、岡部長職は、明治、大正年間の外交官。
明治１５年（1882）アメリカのイェール大学・英国ケンブリッヂ大学に留学。
　　２０年（1887）英国公使館に勤務。
　　２４年（1891）貴族院議員・司法大臣等を歴任・大津事件の責を負い辞任。
　　３０年（1897）東京府知事に就任。
明治時代のエリートとして生きた人物であり、末息子の長章は、終戦時の昭和天皇の侍従を務めた。

石橋正二郎は、貼り付け式ゴム底足袋の考案者であり、福岡県久留米市に生まれ、17 歳の時、家業の仕立物屋を継ぎ、地下足袋やゴム靴の製造を通じて、全国的な企業へと拡大し、1931 年ブリヂストンタイヤを創業した。
石橋正二郎氏は、日本の実業家で㈱ブリヂストンの創業者であり、1966 年 8 月に日産自動車と合併したプリンス自動車の育ての親でもある。

いききの道

いききの道は、多摩川によって削られてできたハケの道である。江戸時代に整備された甲州街道以前の甲州古道である。昔、奥多摩で切り出された材木は筏に組まれて多摩川を下り、東京湾まで運ばれていました。その時の筏師たちが“行き来した道”であることから「いききの道」となづけられた道である。
この道は別に「筏道」「ハケタ道」「御滝道」とも呼ばれる。
「火事と喧嘩は江戸の華」と云われるように江戸時代には火事が多かった。
1. 1657 年　明暦の大火　(死者 107000 人)
2. 1772 年　目黒行人坂の大火　(死者　14700 人)
3. 1806 年　丙寅の大火　(死者　1200 人)

そこで木材の需要は多く、一大消費地江戸の需要を賄う為、江戸近郊の奥多摩の木材は重宝され、この木材(杉、檜)の運搬に多摩川の水運が利用された。
特に、幕末から明治にかけて大変盛況であり、筏師は粋でしかも稼ぎのいい花形稼業(武蔵野の高給取り)で、当時の若者には憧れの職業であったという。
多摩川の筏流しは江戸時代中期以降、幕末から明治 30 年代にかけ最盛期を迎えたと云われる。筏流しは、秋の彼岸から翌年の八十八夜(5 月 1 日、2 日)までと決められており、しかも取水口のある羽村の堰を通過出来たのは、月の内、5 日 6 日、15 日、16 日、25 日、26 日の 6 日間に限られていた。(江戸時代には 3 回の説あり)沢井から千ケ瀬までは一枚(組んだ筏)を一人で乗る。これを「青梅サゲ」と称す。順調にいけば朝、千ケ瀬を出て午後の羽村の堰落としに間にあった。沢井を出た筏乗りは拝島に泊まる。翌日府中まで下り一泊。三日目は二子泊まり。四日目に漸く六郷着となる。六郷に着いて、送り状や、上荷物一切を筏問屋に引き渡し、その夜は川崎に一泊し、翌朝、宿を出て立川まで歩き青梅まで帰るのである。
当時、府中辺の多摩川岸に筏を留めて置く場所があり、又筏乗りを泊める「筏宿」と云う特定の宿屋があった。下りの時は筏を留めて、筏宿に泊まり、帰りの時も筏宿に休息し一杯やると云うわけで青梅辺りにも筏宿が処々にあったと云われている。筏乗りの服装は、印半纏に股引、草鞋ばきで、腰に鞘鉈(サイナタ)を結びつけ、晴雨に拘わらず蓑と檜笠を身につけていた。明治、大正期の筏乗りの賃金は 1 回で 15 円。当時の米 1 俵(60kg)6 円の時代である。
多摩川の筏流しは、大正の末には急減し、陸上輸送の発達と共に姿を消していった。同じ頃、多摩川の砂利採取も取り過ぎの為、禁止となったようである。

(多摩川郷土研究雑誌第 9 号)
(猿渡盛厚著　武蔵府中物語)

瀧神社

大國魂神社の境外末社。600 年前に創建された社と言われている。大國魂神社より東へ 1.5km。清水が丘２丁目の府中崖線上に鎮座している。この社の東にある滝は、かつては、崖線の中腹から清冽な湧き水が絶えることがなく流れ、「お滝神社」とよばれており、「白糸の滝」とも呼ばれておりました。
「清水が丘」の町名もこの滝によるもので、大変貴重な滝で、清水が丘町の鎮守として崇敬されている。
祭神　　賀茂別雷命(カモワケイカヅチノミコト)
　　玉依姫命(タマヨリヒメノミコト)
　　賀茂建角身命(カモタケツヌミノミコト)
京都上賀茂神社の祭神、賀茂別雷命を祀り、下鴨神社の祭神、玉依姫命、賀茂建角身命を祀る。賀茂建角身命は、神武天皇東征の際、ヤタガラスに身を変え、大和に導いたと云う神様である。何れも最も水に縁故の深い神様で、古くは「賀茂の社」と云った。５月５日の大國魂神社の例大祭には、神事の前に奉仕する神職、神人、神馬がこの滝で心身を清めていたが、水量が落ちた現在ではそれも不可能となったが、くらやみ祭の際の神事は今も行われている。
滝は、現在では細くなった湧水に雨水を枡に溜めて流し、辛うじて滝の形を残している。
鳥居の脇の欅は御神木（府中の名木百選)。こぶを触ると御利益がある？
猿渡盛厚著の「武蔵府中物語」には「境内には松、杉、榎の大木が茂っており、滝があった。周辺には滝上、滝下の字地もあり、水量も豊富で、灌漑用水として利用した」と書いている。
瀧神社のハケ上を通る「いききの道」は、西には国府八幡宮下を通り、大國魂神社の随神門前に延びる。東にはハケ上を車返しに通じ、旧甲州街道より古くから利用された道である。計画的に作られた道ではなく、人々が行き来して自然と道が形成されたものである。

多摩の横山

武蔵国府（府中）から多摩丘陵を眺めると横に長く連なる山々で、夕暮れ時にシルエットとして浮かぶその美しい姿は、万葉時代の人々から「多摩の横山」と呼ばれていた。万葉集では望郷や別れを惜しむ道筋として「多摩の横山」が詠われています。

防人の歌「赤駒(あかこま)を山野(やまの)に放(はが)し捕(と)りかにて　多摩の横山徒(かし)歩(ゆか)遣(や)らむ」

　万葉集（第２０巻　４４１７）

東郷寺

聖將山東郷寺と称す。日蓮宗。海軍元帥東郷平八郎の遺徳を偲び、彼の死後、側近小笠原長生(ナガナリ)の尽力により昭和１４年(1939)開基した。小笠原長生との関係は、東郷平八郎が大正 3 年(1914 年)4 月東宮御学問所の総裁に就任した時、御学問所幹事(副校長相当)に就任したのが小笠原長生である。7 年間 2 人は親密な関係で小笠原の文筆力は素晴らしいようであった。
境内の奥に東郷平八郎と小笠原長生の墓が並んでいる。
この地は、東郷が別荘地として晴耕雨読の余生を過ごした場所である。
今も、東郷が使った井戸、耕した農園がある。

東郷平八郎(1847～1934)は、薩摩下級藩士、東郷吉左衛門の四男として誕生。１７歳で薩英戦争に参加。維新戦争では、阿波沖海戦、宮古湾海戦、函館湾海戦で幕府軍と戦う。明治３８年(1905)の日露戦争においては、連合艦隊司令長官として主要作戦を指揮し、日本海海戦においてロシアのバルチック艦隊を撃滅した。
壮大な山門は、三間三戸の八脚門であり、部材は総欅、太い柱の内部は均等に乾燥収縮させるため、中空になっていると言われている。通常の門に比べ規模が大きく、段丘を利用した急な勾配の石段の上にそびえるように建ち、また、装飾が少ないことが、なお雄大さを際立てている。飛島建設が寄進したもので、黒沢明監督の映画「羅生門」のモデルになったと云われている。
山門前の枝垂れ桜の古木は、府中銘木 100 選に選ばれており、日蓮宗総本山身延山久遠寺より移植されたものである。
東郷平八郎の墓は、多磨霊園の名誉霊域にある。又、渋谷区には、軍神として崇められ、東郷神社も造営されている。

かなしい坂

玉川上水の開鑿工事に由来すると伝えられている。玉川上水は最初、府中から始めるも失敗、２度目の福生も失敗し、３度目の羽村から始めたものが成功し、今も残る玉川上水である。
最初に府中から始め、開鑿した掘割に導水したところ、この坂辺りで地中に浸透してしまったと云われている。責任を問われて処刑された役人が「かなしい」と嘆いたことから「かなしい坂」の名がついたと云われる。

玉川上水：羽村から四谷まで全長約４３㎞、高低差９２．３ｍ。
（長さ１０ｍで約２ｃｍの高低差）